

近森病院附属看護学校 自己点検・自己評価表

(評価対象期間:2019年4月1日～2020年3月31日、2020年度公開分)

大項目	中項目	コメント
1.教育目的		教育理念・教育目的は看護学校養成所指定規則(法)と整合性がある。本校の求める学生像、カリキュラムの考え方、卒業時の学生像については3つのポリシーで明確に示している。教育目的、教育目標、ディプロマポリシーのもと系統的にカリキュラムを構成し看護師としての能力育成に努めている。教育理念や教育目標が実際の教師の教育活動の指針となり、新カリキュラムに関する学習会や研修会を通して教員の認識も高まり具体的な教育活動に結びついてきている。卒業時の看護技術到達度の確認も実施している。高知県内外への教育目的・目標の周知はホームページや関連学会などで周知を図っているが十分とはいえない。
2.教育目標		教育理念・目標と教育内容は一貫性を重視し、最上位の目標であるディプロマポリシーに基づき学生の到達レベルを明示している。ディプロマポリシーで掲げる卒業時の到達レベルは新カリキュラムを構築により明確で具体的な表現となり活用・評価できるものとなる予定である。卒業後の最終教育の具体的な方法については検討中である。
3.教育課程経営	教育課程管理者の活動	学内のカリキュラム検討委員会で現行カリキュラムの課題抽出を行い、その結果を教務会議にて教員に提示しカリキュラム検討を行っている。
	教育課程編成の考え方とその具体的な構成	学生の進捗に応じた授業の組み立てを行っており、パンフレットや学習の手引きに明示している。
	科目、単元構成	本校の理念に応じたカリキュラムのもと科目をたててを行っており、本校の特徴も加味している。
	教育計画	カリキュラムの考え方を基盤として科目、単元構成を行っており、進捗表をもとに時間割の調整を行っている。しかし、講師の都合や実習先の受け入れ状況等で変更となることもある。
	教育課程評価の体系	厚生労働省の定める単位数・時間数、内容などを基準とし、本校のカリキュラムは構成されており、妥当であると考え。また、入学時にも単位互換ができることを学生に伝えている。過去にも単位互換を承認したケースもある。カリキュラム検討委員会が3年前より充足しておりカリキュラムの評価を行っている。評価結果の活用における倫理規定を明文化していなかったため作成し倫理規定に則った運営を実施している。
	教員の教育・研究活動の充実	教員の専門分野に特化した担当領域を重視して担当科目の配分を行っている。また、看護教員として就職した年度はできるだけ科目担当ではなく専任教員のフォロー役となり科目の講義に参加し経験するように配慮している。また、実習では専門領域の責任者の教員が実習調整等を主に行い実習施設と学校との連携や教員の人材育成に努めている。
学生の看護実践体験の保障	2019年度は2回の臨地実習指導者会議を行い、学習の手引きをもとに本校の特徴等の説明を再度行った。どの実習施設も実習への協力体制は非常に良く、看護実践に対しても看護過程の展開も含め指導を適切に行ってくれている。また、対象の権利保障においては患者個々に説明を行い同意書をいただき実習施設にも誓約書として提出をしている。インシデントに関しては、学生や教員、実習先へ速やかに情報提供を行い、同様のミスを未然に防ぐように対処している。就職に関しては、3年生は3月に、2年生には夏休み前にインターンシップについて説明を行い、学生自らがインターンシップに参加する促しを行っている。インターンシップに参加した学生数は多くないが近森会グループへの参加者は多い。	
4.教授学習評価過程	授業内容と教育過程との一貫性・看護学としての妥当性・授業内容間の関連と発展	「学習の手引き」のシラバスに授業内容等を明示し教育課程との一貫性を確保している。科目間や授業間の整合性については非常勤講師の科目分担時間の関係で計画とおり実施できていない科目もある。また、教育課程進捗に伴って講義内容が重複する科目については調整中である。カリキュラム改訂に向けて内容の見直しを行っている最中であり、実施・調整面については今後の課題である。
	授業の展開過程	授業内容に応じて授業形態を工夫し教育効果を上げている。授業内容や学生の特徴にあわせアクティブラーニングを取り入れるなど積極的に実施している。教員間では協力体制で授業や実習を行っているが更に効果を上げるための工夫が課題である。効果的な指導・授業を検討し実施しているが、計画・要綱などシラバスの工夫が必要であり、整備が不十分であると考え。講義担当一覧、実習施設の担当教員等一覧に明示できている。実習打ち合わせ、振り返りの会、実習成果発表会、臨床指導者による講義など、それぞれの計画表に則り実施されている。
	目標達成の評価とフィードバック	全教員が授業評価を実施でき、データ集計されている。授業評価に基づき改善しているが、今後さらなる改善の余地がある。本年度の授業評価は専任教員が2年目となり、非常勤講師の授業評価を行った。シラバス上に評価基準を明示し実施したが、「多様な評価」とすると具体性がないため改善の余地がある。シラバスの提示や指導、シラバスが学習の動機付けとなる指導を行っている。単位認定の評価基準がシラバスにて明示できている。
	学習への動機づけと支援	シラバスの提示や指導、シラバスが学習の動機付けとなる指導を行っている。退学率の全国平均は9.2%、2019年度本校の退学率は4%であり、全国値と比較して低値である。アドバイザー制を導入し、細やかな支援ができるよう整備した。
5.経営、管理過程	設置者の意思・指針	設置者が学校設立時に開校の趣旨を明記しているとおりの方針で学校経営を行っている。管理者と設置者の考えには一貫性があり設置者の意思を尊重した運営を行っている。管理者は教育理念・教育目的への考え方を明示しているが、教育課程経営の明示は明確になされておらず今後の課題である。現在の教育評価は、「優」「良」「可」の3段階評価であるが、第三者が客観的に把握できる評価方法としてGPAを導入した。
	組織体制	意思決定は各委員会ですべての事項を協議し、学校運営会議にて重要事項を協議している。
	財務基盤	財務情報について決算を行い、財務情報をホームページにて公開している。教職員へどのように財務基盤が成り立っているかの資料は提示をするが、説明が十分とはいえない。
	施設整備	学習・教育環境の整備を心がけている。業務の効率化の為、セキュリティを考慮した学内ネットワークを構築している。備品台帳の整備はできているが、施設整備の計画について未実施。火災及び自然災害に対する体制については、2019年度は安否確認システムのテストが未実施である。
	学生生活の支援	奨学金や支援制度を利用して学生の授業料の負担軽減をサポートしている。
	情報提供	入学式・卒業式など年間行事をホームページ等から情報発信を行っている。保護者への情報提供も必要に応じて発信している。
	将来構想	2019年度の将来構想をもとに進めている。
	自己評価	評価結果をもとに改善が必要な箇所については、課題の対応について検討している。

近森病院附属看護学校 自己点検・自己評価表

(評価対象期間:2019年4月1日～2020年3月31日、2020年度公開分)

大項目	中項目	コメント
6.入学・広報活動	入学	入学試験実施規程に基づいて入学者選抜を行っている。入学者状況については入学試験委員会で検証、次年度の入学者選抜方法につなげている。
	広報活動	パンフレットや学生募集要項などの広報ツールを使って広報活動を行っている。高校への学校訪問で情報交換を行っているが、より学校を知ってもらう為に進路指導向説明会を計画した。卒業後の進路状況について2019年度はパンフレットへの掲載をしていなかったが、2020年度はパンフレットに掲載した。
7.卒業・就業・進学		卒業時の到達状況調査は卒業学年を対象に実施しており、3期生までの集計は終了した。今後、詳細な分析を行うことで課題の明確化を図り、本校の特徴を明確にする予定である。卒業生の大半が就職している近森会との情報交換は概ね図れているが、その他の就職先については不十分である。就職先での評価や問題点について早急に調査票等で把握し卒業生の動向把握に努める。また、昨年度、同窓会を設立するため委員会を立ち上げ、設立に向けて準備を行っている。同窓会設立後の活動状況等を把握するための調査を実施する計画である。卒業後のフォローとして、ケーススタディの相談や学校施設の開放を継続して実施している。
8.地域社会活動	地域社会	積極的な地域ニーズの把握は行っていないが、地域の自治会を通して情報を得ている。地元地域の行事開催は概ね土日開催のため、ほぼ参加できていない。しかし学園祭等の学校行事では地域へ情報発信を行い、参加を呼びかけている。今後、近隣のニーズを詳細に把握し地域へ貢献できる方法を探る必要がある。高知県の医療に関するニーズや看護学校の状況等に対しては積極的に情報収集して地域への貢献に役立てている。ボランティア活動への支援要請があった場合、学生へ伝達して積極的参加を呼びかけている。現在のところ積極的に参加する学生が少ない。まずは、ボランティア精神を育む教育を実践していくとともに、身近な地域のボランティア活動への参加を促していく。
9.研究		昨年度と同様のFD計画を実践し成果をあげている。